

# 企画展 吉田天王社と神主石田家



平成三十二年二月十九日〔火〕≧三月二十四日〔日〕  
 休館日／月曜日  
 開館時間／午前九時≧午後五時  
 観覧料／一般・大学生四百(三)円 小・中・高生二百(三)円

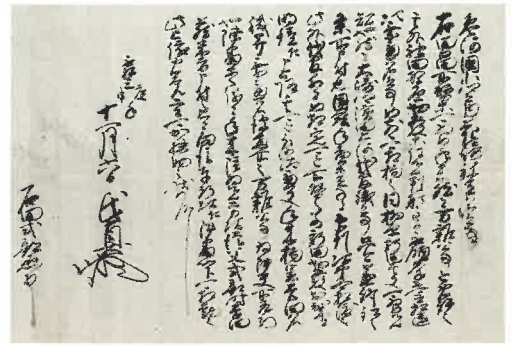
- (○)内は前売または二十名以上の団体料金。
- 前売券は豊橋市美術館・豊橋市二川宿本陣資料館・豊橋市役所 じょうほうひろばで二月十八日まで販売(全額資料館は二月十七日まで)。
- 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方と介助者は無料。
- 「ほの国」子どもパスポート(東三河地域在住または在学者対象)をお持ちの小・中学生は無料。
- 豊橋市在住の七十歳以上の方は割引料金(二百円)。
- 当展有料券の提示で、国立国際美術館コレクション「美術のみかた 自由自在」(会期二月十六日～三月二十四日)が団体料金となります。

## 豊橋市美術館

愛知県豊橋市今橋町三二(豊橋公園内) 電話〇五三二一五二八八二

写真

吉田神社旧式祭礼図絵馬(部分)畑在周明治二十三年(八九〇) 吉田神社蔵  
 獅子頭(御頭様)南北朝～室町時代 吉田神社蔵  
 獅子 江戸時代 吉田神社蔵



曲亭馬琴の紀行文で「今夜の花火天下第一と称す」と紹介された吉田天王社の花火。その伝統は、城下の町衆によって豊橋祇園祭に受け継がれ、現在では勇壮な手筒花火で知られています。吉田天王社(現吉田神社)は、かつての吉田城内にあり牛頭天王を祀った神社です。天文16年(1547)には今川義元が神輿を寄進、江戸時代にも吉田城主の庇護を受けて、同社には多くの奉納品が残されています。

本展では、祭礼や花火の今昔を見ていくとともに、古文書や彫刻・工芸品などの文化財を紹介し、同社の歴史や城主・町衆との関わりを考えます。また、江戸時代後期に宗徧流の茶人として活動した神主偃松軒青標の遺品を紹介します。



### 展示構成

- I 夏の風物詩—豊橋祇園祭—
- II 江戸時代の吉田天王社祭礼
- III 牛頭天王信仰と戦国時代の石田家
- IV 江戸時代の天王社と吉田藩主
- V 神主石田家の文芸—偃松軒青標と茶道・国学—

### 記念講演会「戦国時代の吉田天王社と石田家」

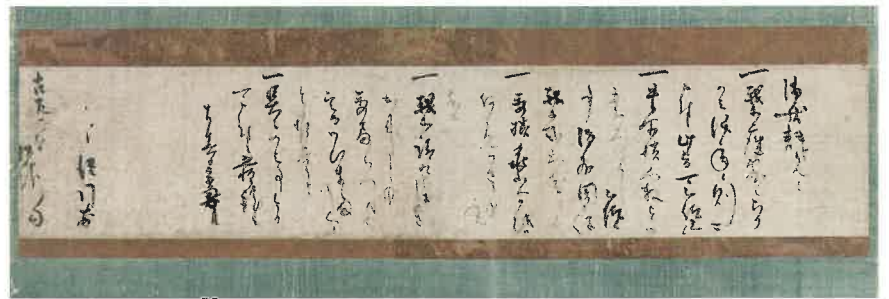
日時・2月23日(土) 午後2時  
 場所・豊橋市美術博物館講義室  
 講師・山田邦明氏(愛知大学教授)  
 定員・80名(先着順)

### 体験教室「ミニ手筒花火をつくろう」

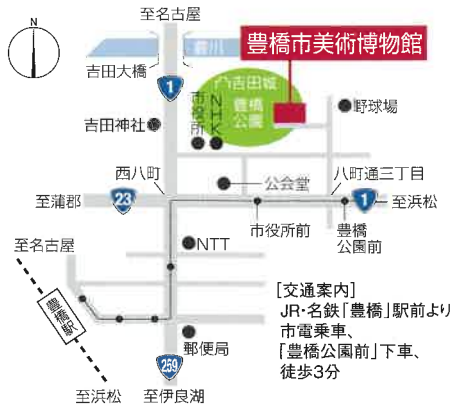
日時・3月9日(土)・10日(日) 午後2時  
 場所・豊橋市美術博物館講義室  
 講師・豊橋祇園祭奉賛会  
 対象・小・中学生(小学生は保護者同伴)  
 定員・各回20人(申込順)  
 料金・300円(材料費)  
 申込・2/5(火)午前9時から電話で美術博物館へ

### ギャラリートーク

日時・3月16日(土)・23日(土) 午後2時  
 場所・豊橋市美術博物館展示室(要観覧料)  
 講師・当館学芸員



写真(左上から) 獅子・鎌倉時代・吉田神社蔵/手筒花火(上伝馬町)・平成30年(2018) /今川氏貞判物・永禄3年(1560)・個人蔵  
 牛頭天王立像・平安時代・久麻久神社蔵/三ツ扇紋記つなぎ文時絵巻・元禄14年(1701)・吉田神社蔵  
 三河国吉田名跡絵巻・山本貞歳・江戸時代後期・個人蔵 / 古田織部宛千利休書状・安土桃山時代・個人蔵



〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)  
 TEL.0532-51-2882 FAX.0532-56-2123  
<http://www.toyohashi-bihaku.jp/>



TOYOHASHI CITY MUSEUM OF ART & HISTORY  
**豊橋市美術博物館**

www.chausuyama.jp



一般財団法人  
**茶白山高原協会**

広告内容に関する責任は広告主に帰属します